



アマゾン創価研究所 2025年度活動報告書

アマゾン創価研究所のミッションは、
人間と自然の調和と共存を育み、
アマゾンの生態系の健全性を
確保することです。



関係各位（パートナー、寄付者、 そしてご協力くださる皆様へ）

私たちの活動に対する皆様お一人おひとりの厚いご支援に、深い感謝の意を表します。

2025年度における私どもの成果は、アマゾン創価研究所に対し、皆さま方が私たちのチームの努力を支え、使命を信じ支えてくださった結果にほかなりません。

昨年度、私たちの教育的DNAがさらに確固たるものとなり、人間の幸福は環境との調和と切り離すことができないという信念を改めて確認しあうことができました。

そして共に、目標を現実へと転換し、次のような成果を得ることができたのです。

・**卓越性への評価**: ブラジル環境省による「グリーンルーム (Sala Verde)」認証を取得。私たちの環境教育プロジェクトが厳格に評価されるとともに国内の持続可能な実践の戦略的ネットワークの一員として認められました。

・**教育的な成果**: 1825人の学生・生徒に対し学びの機会を提供し、120人の教育者も参加。合計225時間以上にわたる直接的な教育活動を実施。

・**森林再生と生物多様性への貢献**: 独自の育苗施設において高品質な苗木3367本を生産・管理しました。さらに、学校や地域社会への苗木の提供および植樹を通じて、地域の緑化に貢献。さらに責任感を共有し意識啓発に努めました。

・**実践的な環境活動**: この度行った第3回清掃活動では、198人のボランティアの力により、ネグロ川の河岸から10.9トンの廃棄物を回収しました。



・**世界への発信：**ベレン（パラ州）で開催されたCOP30において、アマゾンの声と創価のヒューマニズムを世界に発信し、私たちの「グローバル倫理バランス」に関する取り組みが、成功事例として高く評価されました。

違法伐採やアマゾンにおける森林火災、さらにはネグロ川の深刻な増水など、重大な環境課題に直面する中で、私たちは単なる監視にとどまらず、再生・教育・そして地域の最も脆弱な人々に直接影響を与える気候不正義に立ち向かう取り組みの緊急性を改めて強調しています。

2025年に行った行動一つ一つが、調和への遺産として作り上げられ、日々のニュースに対する憤りを生命を守る具体的な行動へと変えていく確かな一歩となりました。

植えられた一本一本の苗木と、心を動かされた一人ひとりの若者は、私たちの生態系の未来への希望の種です。創立者である池田大作博士が示されたように、アマゾンは「人類の宝」であり、私たちの智慧と地球愛の証として守り抜いていくべきものです。

私たちの活動を支援して下さい、本当にありがとうございます。2025年度の成果をもとに、生命と生命の相互依存関係の調和と共生という遺産を守ってまいります。

敬具

アマゾン創価研究所

ルシアノ・ゴンサウベス・ド・ナシメント所長



**Luciano Gonçalves
do Nascimento**

Presidente do Instituto
Soka Amazônia



読者の皆さまへ

今、この書面をご覧になっている皆さまとは、環境教育、アマゾンとの共生、先住民と森林の集落への深い敬意という共通の思いを分かち合っていることと存じ上げます。書面を通してではありますが、アマゾン創価研究所にとって、私たちの歩みに対するより成熟した理解を深める貴重な一歩となることは間違いありません。

お手元の報告書は、多くの人々が、己の能力を最大に発揮し、感性をもって、諸活動の実現のために力を合わせた努力の結晶です。資料を読み進める中で、共に新たな対話の道を開き、私たちの目的と希望への絆を深めることで、協力しゆく可能性を広げて頂ければ何よりです。

活動や結果だけでなく私たちの活動を貫く精神性、つまり喜び勇んで行う姿勢、結束力ある行動、課題に立ち向かう勇氣、正義に対する変わらぬ責任感を後世に残していくことを大切にしています。これらの価値はアマゾン創価研究所の日々に息づき、一つ一つの取り組みにも徹底しています。

私たちの活動拠点は、私有自然遺産保護区という区分に属する私有の保護地域に位置しています。管理計画の一環として、異なった地域との環境教育などを進めています。10年以上前から、正式な教育の場にとどまらない非公式な場での教育実践を進めており、子どもや青年、成人を含めて自然との調和について学びの場を提供しています。

アマゾンの森林とネグロ川、ソリモンエス川の壮大な合流地という景勝地での共生の日々から、私たちにもたらす経験が生まれました。昨年一年間に亘り、この場所を訪れた人々が、創立者である池田大作博士の人間主義の理念を広めていくことに努めてまいりました。またこの地は、歴史的、考古学的遺産としても認められており、教育・文化・平和・生命尊厳を継承しゆく場でもあります。



本書が、皆さまにとってもよい結果をもたらし、お一人お一人が、教育・平和・生命のための共通の道のりへの思いを振り返り、新たな協働の可能性を呼び覚まし、そして開きゆく一助となりますことを願いたします。

アマゾン創価研究所

ジョアン・カルロス・ジュニオル環境部長



João Carlos Júnior

Diretor Ambiental do
Instituto Soka Amazônia





意識の目覚め-創価 研究所の教育DNA

アマゾン創価研究所では、環境教育は単なる一つの部門ではなく、私たちの“遺伝子”そのものです。このDNAは、創価学会の創立者たちから直接受け継いだものであり、人間の幸福は環境との調和なくして成り立たないという、人間主義の理念に根ざしています。

30年の歩みと確かな遺産 の確立

私たちのアマゾンでの歩みは、レジリエンスに満ちた計画性と長期的なビジョンによって形づくられてきました。すべての始まりは1990年、後に保全の要となる地域を戦略的に取得したことでした。この瞬間に、比類なき重要性をもつ生態系を守るためには、忍耐と献身が不可欠であるという理解のもと、揺るぎない保全への決意の種がまかれたのです。





20年以上にわたるこの熟成の歩みは、2014年、創価研究所の設立という組織的な形で結実しました。1990年に保全活動として始まったものは、社会的・科学的インパクトを拡大する強固な組織として正式に姿を現しました。私たちの池田大作博士私有自然遺産保護区の創設は、単に森林を隔離する行為ではなく、人類にとっての“生きた実験室”を提供することでもあったのです。

保全から教育へ - 持続的な取り組み

1990年代の最初の一步から、現在の確立された体制に至るまで、30年以上にわたる歩みの中で、私たちは一つの重要なことを学びました。生物多様性を守ることは、本来教育的な行為であるということです。



決定的な転換：

2014年の正式な制度化により、私たちは領域の保全という役割を、より体系的な取り組みへと発展させることができました。例えば、環境アカデミーの活動開始や、ブラジル環境省による「グリーンルーム」としての認証などが挙げられます。



動き続ける功績：

私たちは、池田大作博士の功績を尊びながら、1990年代から植え続けてきた一本一本の木、そして今日までここに迎えた一人ひとりの生徒を、新しい文明の種として大切に育んでいます。



生命のための教育

1990年における私たちの出発点と現在の組織的な基盤を結びつけると、創価研究所が「人間革命」をこの土地において実践してきた成果であることが理解できます。30年にわたりこの地を守り続けてきた私たちは、単に炭素や生物種を保全しているのではなく、「ケア(思いやり)」という新しい倫理を育んでいるのです。

本報告書の冒頭にあたり、私たちの教育使命が、世代を超えて受け継がれてきた揺るぎない誓いの反映であることを改めて確認します。1990年に蒔かれた夢が、今日、アマゾンそして世界に変革をもたらす創価研究所という現実へと結実したのです。





グリーンルーム認証- 環境省が認めた卓越性

2025年2月17日、アマゾン創価研究所は教育の歩みにおいて新たな段階へと到達しました。環境アカデミー・プロジェクトが、環境省より正式に「グリーンルーム」として認証されたのです。

これは、制度上の認証だけではなく、当研究所の環境教育プロジェクトの厳密さと深みが高く評価された証しであり、さらにブラジル全土で展開される持続可能な知識と実践の交流ネットワークに、当研究所が戦略的に参画することを意味しています。





グローバル・アジェンダ との連携

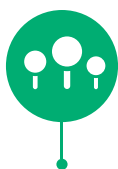
今回の成果は、当研究所がグローバルに掲げてきた約束を地域レベルで体現したものであり、地球憲章の柱、および持続可能な開発目標(SDGs)と直接結びついています。



地球憲章(原則14)：情報へのアクセスを民主化し、非公式の環境教育を推進することによって、創価研究所は「持続可能な生活様式に必要な知識・価値観・技能を、正規教育および生涯学習の中に統合する」という使命を果たしています。



SDG4(質の高い教育)：すべての生徒が、持続可能な開発を推進するために必要な知識と技能を身につけられるようにするという目標を強化しています。



SDG15(陸の豊かさを守ろう)および SDG17(パートナーシップで目標を達成しよう)：この認証は、研究所が厳格な政府評価に対応できる技術的能力を備えていることを示すものであり、アマゾン生態系の保護において国家の戦略的パートナーとして機能していることを証明しています。

戦略的インパクト

「グリーンルーム」であることは、アマゾン創価研究所が単に森林を保全するだけでなく、それを“地球市民”を育むダイナミックな拠点へと転換させていることを意味します。ここでは、環境情報へのアクセスが、来館者および周辺地域のコミュニティすべてに保障された権利として位置づけられています。





環境アカデミー-2025年における定着、相乗効果、インパクト

2025年、環境アカデミーは、優れた成果を示すプログラムとして確固たる地位を築きました。その背景には、管理者や教育者との継続的で触発に満ちた対話がありました。このネットワークの強化により、設定した目標を達成しただけでなく、教育面・社会面の期待をも上回る結果を生み出すことができました。

アートと環境のシンフォニー

今期の大きな特長の一つは、新たな教育機関との連携が進んだことです。その中でも、アニバル・ベッサ芸術センターとのパートナーシップは特筆すべきものでした。音楽や演劇に放課後の時間を捧げる学生たちの参加は、芸術表現と環境意識の融合という、忘れがたい出会いをもたらしました。

この“アートと自然のシンフォニー”は、私たちの希望を新たにし、美的感性が深い環境教育へと導く豊かな道であることを示してくれました。





達成された目標と 共有されたレガシー

2025年の目標を完全に達成できたのは、創価研究所のスタッフ、市教育局の教員、ボランティア、そして協力機関とのシナジーあふれる努力の結晶です。単なる数値以上に、私たちは変革の“種”を蒔きました。それは学校という大地だけでなく、参加したすべての生徒と教育者の心の奥深くにもしっかりと植えられています。

パフォーマンス指標 とインパクト(2025)

到達度と積極的な関わり



1,825名

受入れた
生徒数



120名

参画した
教育者



3,700名

の参加者



+225

時間以上の
直接的な
教育活動





森林再生・植樹活動

2025年の私たちの取り組みは、保全区域の枠を超え、地域社会へと“緑”を広げるものとなりました。

学校での植樹活動

協力校の中庭や共用スペースに、91本の苗木を直接植樹しました。

地域貢献

家庭での植栽と“共同の責任”を促進するため、保護者・生徒・職員など学校コミュニティへ193本の苗木を寄贈しました。

協働生産

生徒とともに育苗所で管理・生産した苗木は、1,800本に達しました。

体験学習とフィールド活動

対面での学習活動

理論と実践を組み合わせ、50回の対面プログラムを実施しました。

フィールド活動

50回の没入型フィールド遠征を行いました。

解説付きトレッキング

170キロに及ぶガイド付きトレイルを、池田大作博士私有自然遺産保護区(RPPN Dr. Daisaku Ikeda)にて実施しました。





質的インパクトの分析

定量的データに加え、参加者のプロフィールには構造的な変化が見られました。

相互依存への意識：

社会と自然の本質的なつながり
に対する認識が深化



アマゾン・アイデンティティ：

地域への帰属意識と価値観の強化



行動変容：

生徒の関心・参加度・態度面での成長について、管理者から多数の前向きな報告が寄せられた





「環境教育が学校へ」 2025-ネットワーク型 活動の広がりと強化

アマゾン創価研究所では、環境教育は協働と相互依存によって花開くものだ理解しています。そのため、2025年を通じて、マナウス市教育局が「Ocas do Conhecimento(環境教育推進室)」を通して推進する戦略的取り組みである「Oca vai à Escola(環境教育が学校へ)」の活動に積極的に参加しました。

私たちの参画は、機関としての出席だけではありません。社会の中に活動を広く浸透させ、ネットワーク型の取り組みを通して、より効果的かつ包括的に貢献するための、意図的かつ計画的な行動です。多様なパートナーと連携して教育活動を展開することで、地域の教育基盤を強化し、私たちの使命の到達範囲を大きく広げることができます。





寄贈・種まき・植樹-学校 コミュニティへの実践的イ ンパクト

マナウス市の都市部および農村部の学校を対象に、隔週で実施された訪問では、樹木とミツバチが環境バランスを維持する上でいかに重要であるかについて、深い交流と対話が行われました。毎回の訪問で、初等学年の生徒約50名を対象に活動を行い、「一人ひとりが変革の担い手である」という意識を高めることができました。

私たちが学校コミュニティに対して行った直接的な貢献は次のとおりです。

在来種苗 木の寄贈：

各学校に約 15 本の地域在来樹木の苗木を寄贈し、校内の緑化と地域固有の植物とのふれあいを促進しました。

共同での 播種活動：

生徒たちはヒマワリの種まきに参加し、生命を育むという象徴的かつ実践的な行動を体験しました。

協働植樹：

生徒・教師・管理者が積極的に参加し、5 本の苗木を共同で植樹しました。この取り組みは、学校の環境を変えるだけでなく、コミュニティの絆を強化する機会となりました。

成果と「帰属のレガシー」

予定していた17校のうち 12校 を訪問し、およそ 600名 の生徒を対応することができました。ネットワーク活動の直接的な成果として、180本の苗木を寄贈し、60本の苗木を植樹しました。これにより、緑とケア、帰属意識、そして環境保全の精神という確かなレガシーを残すことができました。



ボランティア活動と 人材育成-広がり続ける 学際的ネットワーク





2025年、アマゾン創価研究所は、環境アカデミーにおける最も有望な取り組みの一つであるボランティアおよびフィールド研修プログラムを確立しました。この取り組みの第2弾を成功裏に実施し、持続可能性のためのリーダーシップ育成に対する私たちの揺るぎない使命を再確認しました。

今回の取り組みで最も鼓舞された点の一つは、参加した青年たちの学際的な多様性でした。私たちは、次のような異なる専門分野の大学生を迎えました。

生態系に関する科学的知見を提供

バイオームを社会的・領域的観点から捉える視点を貢献

天然資源の持続可能な価値向上に焦点を当てた

学校との教育的仲介に不可欠

生物学

地理学

観光学

教育学

これらの知の融合は、研究所内部の議論を豊かにしただけでなく、協力関係にある学校との活動において、より包括的で総合的なアプローチを可能にしました。

ボランティア精神という価値

私たちに大きな誇りをもたらし、この取り組みにさらに尊い意味を与えているのは、これらの若者たちを突き動かしたボランティア精神です。創価研究所では、真の変革は、貢献したいという純粋な願いから生まれると信じています。これらの大学生が、自らの時間、才能、そしてエネルギーを自発的にアマゾンのために捧げている姿は、私たちが地球市民として行動する新しい世代を育てていることの確かな証しなのです。





指導と「学ぶ喜び」

活動の質を確保するため、すべてのボランティアは、技術的知識と人間主義の哲学を結びつけた研修および指導プロセスを受けました。

創価研究所の環境アカデミーは、単なる学びの場ではなく、体験のための「生きた実験室」です。私たちの教育方針は、若者が幸福を感じながら学ぶことの大切さという信念に基づいています。

環境教育は、恐れや罪悪感に基づくものではなく、発見の喜び、自然への感動、そしてより持続可能な未来を共に築いていく幸福の中で育まれるべきものだと考えています。





環境アカデミー 特別版「環境週間」 -教育における アートと協働の力





2025年6月、環境週間の期間中、アマゾン創価研究所は、マリア・ハイムンダ・マルケス・ブラジル市立学校を対象に、特別版の環境アカデミーを実施しました。この特別版は、プロジェクトの教育目標に沿ったダイナミックなプログラム構成に加え、前例のない刺激的なコラボレーションによって強化されました。

この機会に、環境アカデミーの内容は特別にアレンジされ、遊びや芸術を取り入れた活動が行われました。ハイライトは、二つの異なるプロジェクトのキャラクターが共に参加し、学生たちの体験を革新的かつ魅力的に豊かにしたことです。

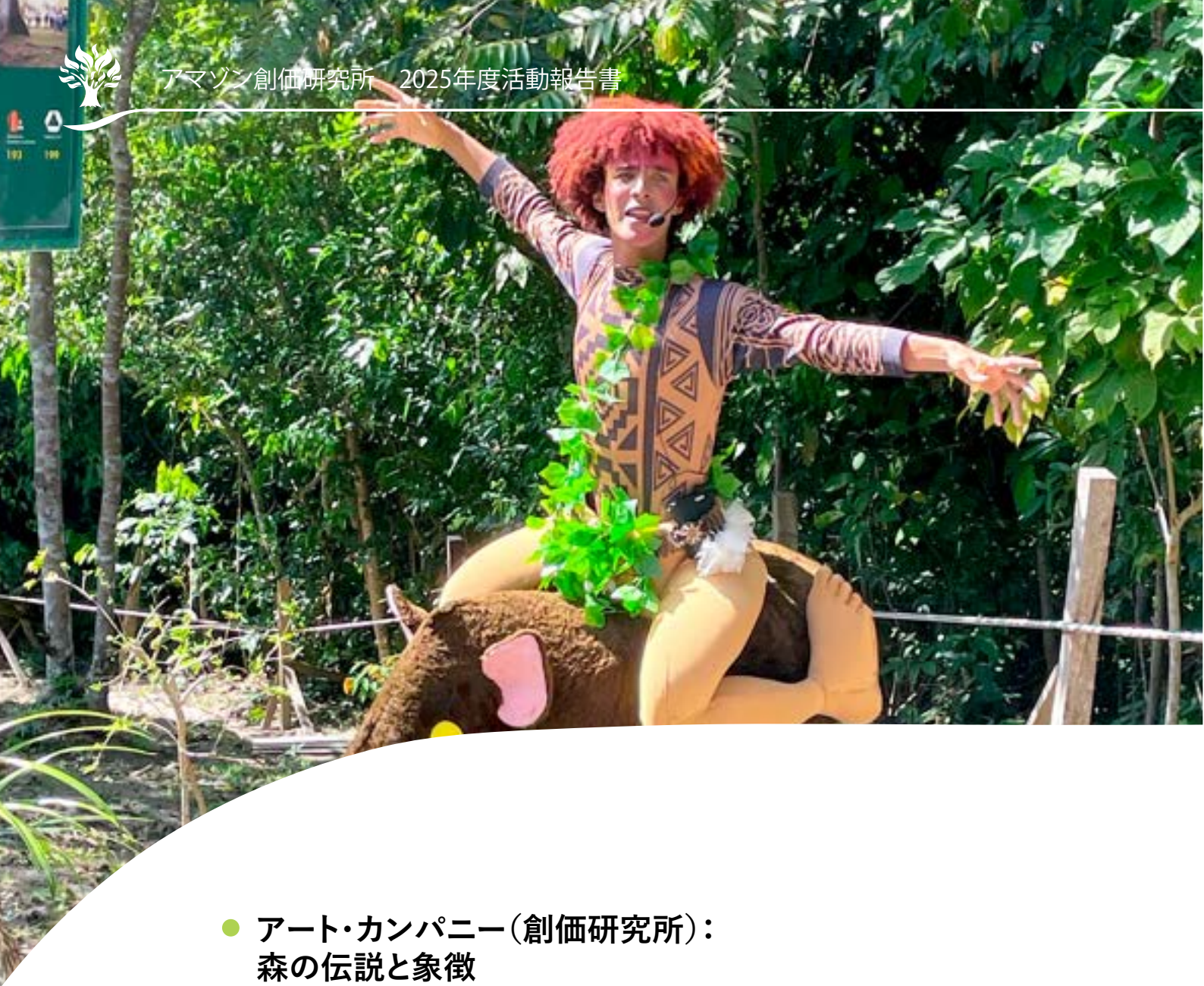
- **環境教育推進室：**

物語と伝統 私たちは特別に、マナウス市教育局の物語プロジェクト「環境教育推進室」からのキャラクターを迎える栄誉にあずかりました。彼らの存在は、民間知識と口承の伝統をアカデミーにもたらししました。

- **セウ・マリオ：**森に関する物語と知識を伝える

- **アリのドナ・ジジ：**学校との教育的な橋渡し役として不可欠





- **アート・カンパニー(創価研究所):**
森の伝説と象徴

アマゾン創価研究所のアート・カンパニーは、アマゾンの森林を象徴する伝説やシンボルをモチーフにしたキャラクターと積極的に参加しました。その芸術的パフォーマンスは、生徒たちを地域の歴史・文化・社会環境的価値へと近づける、強力な教育ツールとして機能しました。

- **クルピラ:** 森と動物の守護者
- **オンサ・ピンターダ(ジャガー):** 生態系の力とバランスの象徴
- **イアラ:** 水の母であり、川の保全の重要性を伝える存在



学びを高める相乗効果

知識と芸術表現の融合は、このような活動をいかに効果的に高められるかを示してくれました。教育局のキャラクター、アート・カンパニー、創価研究所の関係者の相互作用によって、一貫性と魅力にあふれる物語が生まれ、環境アカデミーで扱われる理論的内容と完璧に統合されました。この取り組みにより、プロジェクトを通じて培われた教育アプローチが、より感受性豊かで人間味ある形で、そして何よりも地球市民意識の醸成に効果的に引き継がれることが保証されました。

このハイブリッドな方法論は、以下の点で大きく貢献しています：

- 学生の参加意欲を著しく高めること。
- 遊びを通じた体験により、環境テーマの理解を強化すること。
- 科学的知識、文化的アイデンティティ、環境教育を結びつける体験を促進し、芸術が社会・環境変革の強力な手段であることを示すこと。

生徒や教育者から寄せられた肯定的な反応は、アートと環境の融合がもつ力に対する私たちの確信をいっそう強めるものです。この取り組みは、今後の環境アカデミーにおけるさらなる発展と、本メソッドの拡大に向けた有望な道を切り開いています。



自然保全

統合管理と保護地域における卓越性

池田大作博士私有自然遺産保護区(RPPN Dr. Daisaku Ikeda)の管理機関として、創価研究所は、このアマゾン森林の一画を守るためには、単なる日常的な維持管理にとどまらず、社会環境面での卓越性と革新を絶えず追求することが不可欠であると認識しています。2025年、私たちは次のような重要な柱を通じて、その取り組みをさらに強化・確立しました。

- **包括的な監視と保護**

フェンス設置とモニタリング:保護区の周囲全域(100%)の防護を完了しました。また、脆弱性を特定するための継続的なモニタリングシステムを導入し、迅速かつ的確で、さらに教育的な対応を可能にしました。これにより、領域管理における進展の履歴を蓄積し、管理体制の質を高める基盤を確立しました。

- **森林生産と持続可能な管理**

私たちは地域在来種の苗木生産プロセスを最適化し、発芽から配布に至るまで、厳格な管理基準を採用しました。これにより、植栽後の生存率向上を確保しています。

また、保護区内のすべての業務において固形廃棄物管理システムの導入を開始し、内部の実践を国際的な持続可能性目標に整合させる取り組みを進めています。





生物多様性と市民科学

自然保護区を適切に管理するためには、ここに生息するすべての動物や植物を、直接観察することが不可欠です。そのため私たちは、市民科学アプリである eBird や iNaturalist を活用しています。これらは誰でも利用できる公開プラットフォームで、自然の中で観察した内容を記録すると、その一件の記録が科学データとなり、生物多様性の理解と保全に役立つ仕組みになっています。







定期的に、私たちは保護区内で動植物のカatalog作成を目的とした観察会を開催しています。この時間は、力を合わせ、地域コミュニティや協力企業、その他の機関を招き、ともに森を観察する機会でもあります。

すべての業務を高い品質で進めるために、私たちはアマゾナス州立大学(UEA)による「Vem Passarinhos(ベン・パッサリニャール)」プロジェクトの支援を受けています。このプロジェクトは、当保護区における鳥類相の調査に必要な専門的な知識と技術を提供してくれています。

こうして、撮影された写真や記録のひとつひとつが、保護区の未来を守る手助けとなります。これまでに確認された生物の情報は、以下のリンクからご覧いただけます：

研究所での
鳥類観察
(eBird):



保護区での
鳥類観察
(eBird):



植物・動物
の記録
(iNaturalist)



● 動物保護

私たちは、施設内で発見され捨てられた動物に対して、受け入れとケアのプロトコルを維持しています。これにより、動物の安全を守り、生態系のバランスを保っています。

● 交流とガバナンス

保全ネットワーク：

私たちは私有自然保護区会議に積極的に参加し、保全ユニットの全国的なネットワークの中での存在感を高めるとともに、他の私有自然保護区との間で技術や経験の共有を推進しました。



全面的なフェンス設置 とモニタリング

自然保護区において、3キロを超えるフェンス設置を完了したことは、単なる物理的な保護を超える意義を持っています。それは、アマゾンの生物多様性の聖域としての区域の完全性を守るという揺るぎない誓いを示すものです。このプロセスは、当区域が戦略的な保全ユニットとして認識され、尊重されるためにも重要な基盤となっています。

積極的な監視と脆弱性の診断

私たちは、厳格な周辺モニタリングのルーチンを導入し、以下のことが可能になっています。

- **早期発見:** 脅威を迅速に検知し、保護区管理における継続的改善の機会を把握することができます。
- **ネグロ川における廃棄物管理:** 保護区はネグロ川の正面に位置するという恵まれた環境にあるため、モニタリングは川岸にも及び、流入する固形廃棄物の影響を精密に分析することが可能です。
- **教育活動:** 川岸で収集された情報は、私たちの意思決定の基盤となり、環境問題を地域社会や訪問者への教育と意識向上のためのツールになります。





種子、苗木、そして保全

苗木の生産は、森林再生だけでなく、生物多様性の豊かさと実践的な環境教育の提供を目指し、厳格な品質基準の下で行われています。

私たちは、人と苗木を結びつけることで、植えるという単なる行為を超えた繋がりを築くことができると信じています。それは、地球の未来に対する相互の約束として、二つの命をつなぐものなのです。

森林苗畑の成果 (2025年サイクル)

2025年、当研究所の苗畑は、地域在来種の増殖を担う戦略的拠点として確固たる地位を築き、次の成果を達成しました。

- **総生産量**: 3,367本の高品質な苗木を生産し、継続的にモニタリングしました。
- **都市環境の改善**: マナウス市の重要区域における再生・緑化のため、119本の苗木を提供しました。
- **地域貢献とパートナーシップ**: 戦略的な寄贈を目的として567本の苗木を選定し、以下を中心に配布しました:
 - 公立学校(草の根レベルでの環境教育の強化)
 - 地域社会とパートナー機関
- **人間主義的な省察**: 配布された一つ一つの苗木には、受け取った人の景観や意識を変える潜在力が宿っています。それらは、アマゾンにおける私たちの使命を象徴する“生きたシンボル”となっています。





模範をもって導く

アマゾンの保全は、まず私たち自身の行動の一貫性から始まります。2025年、アマゾン創価研究所は、池田大作博士私有自然遺産保護区において固形廃棄物管理計画第1段階を導入し、重要な一步を踏み出しました。

この取り組みは、単なる業務上の調整にとどまらず、習慣の変革を促し、従業員と訪問者の習慣を変革し、深い環境意識を強化することを目的としています。

第1段階：インフラ整備と意識向上



標識設置と分別回収：施設内のすべての動線において戦略的な廃棄ポイントを設け、現行の技術規格に準拠した統一型の分別回収容器を導入しました。



発生源での削減：再利用可能なカップの使用促進や意識的な消費行動など、保護区内での廃棄物発生を大幅に抑制する取り組みを推進しました。



行動変容のための教育：この段階は金銭的投資を最小限に抑えつつ、高いレベルの参加と関与によって完遂されました。これにより、政治的意思と組織としての模範が、社会変革を動かす主たる原動力であることが実証されました。







インパクトと未来ビジョン

人為的圧力（人間活動）が保護区において増大する状況の中、この管理システムは次の価値を提供します。



定量的管理: 将来の削減目標の策定に向けて、廃棄物発生量に関する正確なデータを収集します。



教育的環境: 保全ユニットそのものが教育ツールとなり、来訪者が実践を通して正しい廃棄方法を学ぶ場として機能します。

倫理的管理と動物保護 - 統合的保全における学び

2025年、世界的に深刻化する動物保護の課題、そして保全ユニット周辺での家庭動物の遺棄という現実直面し、アマゾン創価研究所は「動物受け入れと保護プロトコル」を導入しました。この取り組みは、緊急的な影響を軽減するために設定された一時的かつ限定的な施策でありながら、都市環境と保護区が交わる場における共生の在り方について、研究所に深い制度的学びをもたらす領域へと発展しつつあります。







戦略的提携と倫理的管理

民間団体(NGO)「アンジョス・デ・ファ」との重要な技術的パートナーシップを通じて、私たちは管理上の課題を保護のネットワークへと転換し、次の取り組みによって動物の尊厳を確保しています。



個体数管理:保護区内での無秩序な繁殖サイクルを断ち切るための計画的かつ体系的な去勢活動。



健康管理プロトコル:周辺環境の衛生を確保するため、各個体に対しワクチン接種の完全実施および既存疾患の治療を行う。



栄養安全と生態系の均衡:適切に調整された食事の提供は戦略的な役割を担っており、動物の基本的な栄養ニーズを満たすことで狩猟本能を抑制し、保護区内の在来野生動物を保護しています。

行き先の流れと新たな意味づけ

本プログラムでは、この段階で保護された動物の行き先について、倫理的な指針を確立しました。



責任ある里親制度:若く、適応性の高い動物を安全で信頼できる新しい家庭へと導く取り組み。



シニア犬の引き取り:里親に出す可能性が低い高齢の犬たちは、保護区の日常活動に導入されました。現在では象徴的に見回りを担いながら、当研究所の施設で生涯にわたるケアを受けています。



持続可能性と法的ガバナンス

このプロトコルの維持は、環境裁判所を通じて締結された行動調整協定によって可能となります。このガバナンスモデルにより、森林保全のための直接的な資源に負担をかけることなく、必要な食料供給の確保と獣医サポートを実現しています。さらにこの取り組みは、社会環境上の負債を解決するために法的メカニズムを活用するケーススタディとしても重要な意義を持っています。

学術交流とフィールド体験 における卓越性： 第1回スタディツアー

2025年、アマゾン創価研究所は、アメリカ創価大学(SUA)との戦略的パートナーシップのもと、第1回スタディツアーを実施し、国際教育の拠点としての専門性を確固たるものとなりました。私たちは、イアン・ウィリアム博士の率いる 13名の学生グループを迎え、アマゾンという独自の環境において、当研究所の高いロジスティクス能力と科学的知見の深さを示す機会となりました。





アマゾン創価研究所がこの規模のプログラムを運営する力は、次の要素を統合した高度な複雑性をもつスケジュールを確実に遂行したことに表れています。



技術研修:アマゾン種子管理基礎講座を実施し、実践を通して受講者が地域の生物多様性と直接つながる機会を提供しました。



科学的連携:アマゾン国立研究所 (INPA) との学術交流を推進し、地域の主要研究機関との強固な関係性と信頼を示しました。



文化的・倫理的な体験:ネグロ川上流に位置するカンベバ先住民族「トレス・ウンドス」集落へのフィールド遠征を実施し、伝統的コミュニティとの対話と先祖代々の知恵に触れる変革的な学びの体験を生み出しました。

この歴史的な章は、世界の学術界とアマゾンの現実を結ぶ重要な架け橋としての創価研究所の役割を再確認するものです。当研究所は、独自の制度的ネットワークと現場での専門知識を提供し、未来のリーダーを育成するための比類のない基盤を構築しています。





10º Seminário águas da AMAZONIA





アマゾンの水セミナー- 動き続ける科学と伝統

2025年、アマゾン創価研究所とINPA(アマゾン国立研究所)は技術協力10周年を記念し、アマゾン水セミナーを開催しました。このイベントは、科学の厳密性と伝統的コミュニティの知恵を結びつけ、生命保全のための融合の象徴として確固たる地位を築いています。セミナーは理論的な議論にとどまらず、二つの異なるコミュニティの活動において、大きな影響力を持つ実践的な活動へと発展し、環境教育への献身と、アマゾン文化の価値を高めるという私たちの使命が改めて示されました。

これらの取り組みは、公共善のために行動する研究所の姿勢を体現しており、環境保全が社会発展と人間の尊厳と切り離せないことを証明しています。

自立強化:カンベバ先住民族「トレス・ウニドス」コミュニティにおける苗畑

セミナーの戦略的な展開として、2025年10月22日、研究所はカンベバ先住民族コミュニティに森林苗畑の設置を実現しました。この取り組みは植栽の域を超え、次の価値が含まれます。







復元と文化の継承: 苗畑は、コミュニティ自身が重要な在来種を育成し、劣化した地域の回復を進めることを可能にします。同時に、彼らの生活様式と文化を守り継ぐ手段となっています。



領域のエンパワーメント

領域のエンパワーメント: 研究所は、道具と技術的知識を提供することで、森林のレジリエンスを高めるとともに、コミュニティが自らの領域を持続可能に管理するための自律性を強化しています。その際、先祖代々の知恵と文化を深く尊重しています。

イノベーションと持続可能性: サン・ジョゼ(カレイロ・ダ・ヴァルゼア)における植物紙ワークショップ

カレイロ・ダ・ヴァルゼア市において、INPAとのパートナーシップは森林残渣を活用した紙づくりの社会技術を実践へと導き、以下の成果を可能にしました。



マルチアクター連携: INPAの社会技術コーディネーターであるマルセラ・アマゾナス博士の指導のもと、この取り組みは地域住民、教師、漁師、若者など、多様な参加者を結集しました。



民間セクターの参画: ヴィステオン社やトゥチプラスト社などの企業パートナーが積極的に参加し、ソカ研究所が構築する社会環境責任ネットワークの強さを示しました。

これらの活動は、公共の利益に向けた当研究所の取り組みを象徴するものであり、環境保全が社会発展や人間の尊厳と切り離せないものであることを証明しています。



SEJA BEM-VINDO VII CBRP o de Reservas Particulares do Patrimônio Na



全国的な存在感と管理の 卓越性ー第7回ブラジル 私有自然遺産保護区会議

2025年7月、アマゾン創価研究所は、ミナス・ジェライス州ベロオリゾンテで開催された第7回ブラジル私有自然遺産保護区会議に参加し、当保護区における自然保全の分野での戦略的地位を改めて確固たるものとなりました。研究所は、私たちの保護区で展開してきた活動の重要性を認める公募制度により選出された森林エンジニアのエミリー・カルルッシを代表として派遣しました。

この積極的な参加は、当保護区の運営を、ブラジルにおける民間自然遺産保護区の将来に関する最先端の議論と整合させる上で不可欠でした。この参加から得られた主な成果は以下のとおりです。



ベンチマーキングとイノベーション:全国の管理者との直接的な交流は、当研究所が自らの保全指標を評価し、新たな森林管理手法を適用するための貴重な示唆を提供しました。

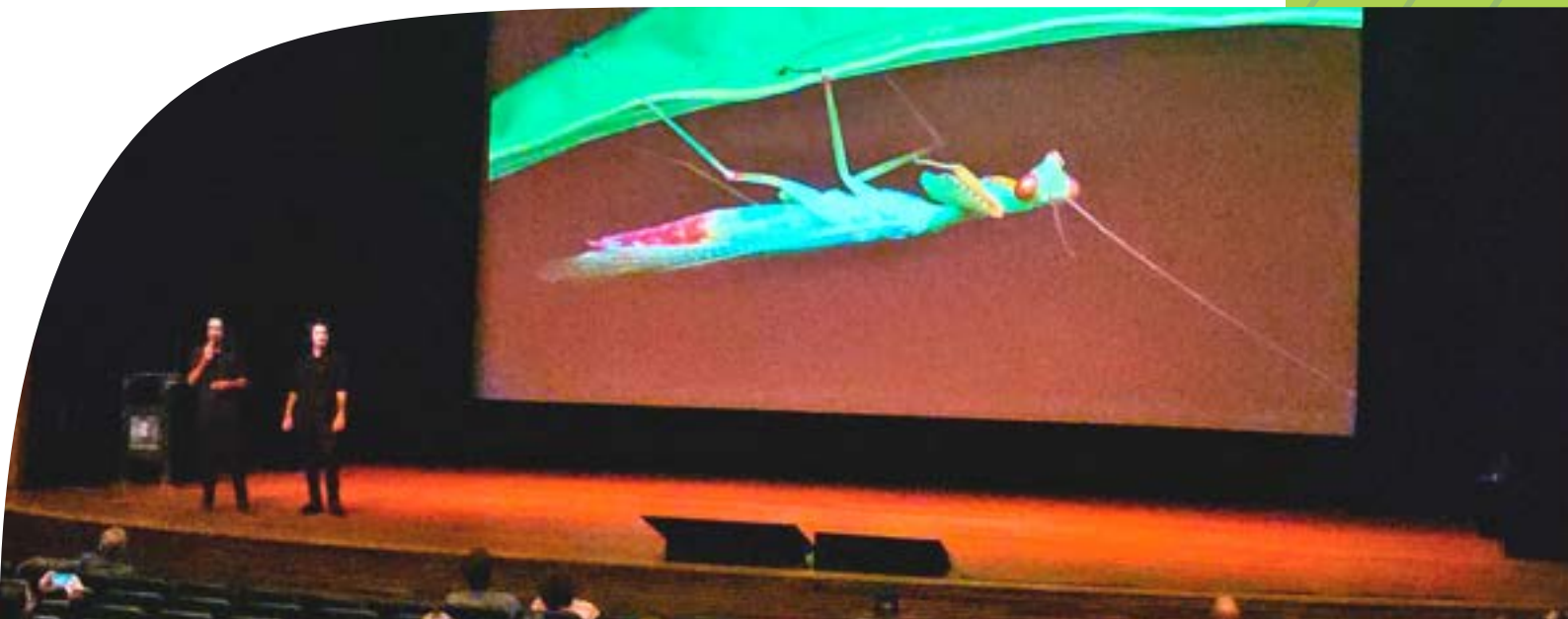


最先端テーマ:本会議では、保護地域の持続可能性にとって不可欠な議題が深く議論されました。たとえば、環境サービスの支払い制度、投資メカニズム、地域コミュニティへの直接的なサービス提供などが挙げられます。



ネットワーク強化:専門家や自然保護区管理者とのネットワークは、私たちが管理する自然遺産のガバナンス実践を直接的に豊かにするパートナーシップを強化しました。

この積極的な参加は、当保護区の運営を、ブラジルにおける私有自然保護区の将来に関する最先端の議論と整合させる上で不可欠でした。私たちはベロオリゾンテから戻り、私有自然保護区が最良の実践に従うだけでなく、今後もブラジル全土の民間保全に触発を与える成功事例を提示する方向へ確実に前進しているという確信を得ました。





2025年の成果と達成

リーダー育成と知のグローバル化

2025年、アマゾン創価研究所の教育部門は新たなレベルの影響力に達し、国際的なフォーラムにおいても、アマゾンの若者の育成においても、私たちの人間主義に基づく環境教育メソッドは確かな位置づけを獲得しました。

国際的な主導性：ポルトガル語圏諸国第8回会議

7月21日から25日にかけて、私たちは次の二つの戦略的な取り組みに積極的に参加し、国際的な存在感を改めて示しました。



メソッドの普及：ジョアン・カルロス・ジュニオル部長が、名誉ある地球憲章インタナショナルの会場にて、当研究所の環境教育プロジェクトを紹介しました。これにより、地域での実践を、持続可能性に関する世界的原則へと直接つなげることができました。



実践的な技術交流：ブラジル各地からの参加者を環境アカデミーに迎え、フィールドの学びを伴う没入型プログラムを実施しました。来訪者は、苗木生産やトレイルでの直接植樹を通して、私たちの教育メソッドを“体験”し、理論を再生的アクションへと転換しました。





リーダー育成:環境に関する州青年会議

アマゾンの未来への私たちの責務は、イランドゥーバで開催された第6回州会議において重要な役割を果たしたことに明確に表れました。



メンタリングと作文支援:運営委員会のメンバーとして、公立学校の学生を対象に「教育と気候正義」をテーマとした文章制作ワークショップを実施しました。



参画の促進:私たちの取り組みにより、全国大会に選抜された18名の若者の能力強化が進み、研究所は若い世代の主役性を支えるファシリテーターとしての役割を確立しました。



全国レベルでの代表活動:ゴヤ—ス州ルジアニア市

このサイクルの集大成は10月に訪れ、当研究所の環境教育コーディネーターがアマゾナス州代表団の一員として参加したことにあります。



多様性への支援:私たちは、アマゾンの多様性を体現する17名の若者を直接支援しました。その中には、キロンボラ(伝統的民族集団)の学生、川沿いのコミュニティ出身の学生、そしてインクルージョンプログラムに参加する生徒が含まれていました。



連邦レベルへのインパクト:全国組織に参画したことで、アマゾナス州の声と現実を明確に届ける役割をアマゾン創価研究所が担うことができました。この取り組みは、環境教育が社会正義と生命保全のための重要な手段であることを強く示す結果となりました。



機関連携-卓越性の証として アマゾン州環境教育合同 委員会へ加盟

2025年8月、アマゾン創価研究所の社会的インパクトの歩みは、アマゾン州環境教育合同委員会への正式加盟という重要な節目を迎えました。第97回委員会会合での加盟は、単なる行政上の手続きではなく、これまで私たちが現場で積み重ねてきた実践の価値が、州レベルで公式に認められた証そのものです。

功績への称賛

研究所の加盟は、委員から寄せられた感動的なコメントによって温かく迎えられました。特に以下のような象徴的かつ実践的な活動が高く評価されました。

- 新型コロナウイルス犠牲者を追悼する植樹活動は喪失の痛みと環境再生を結びつけた取り組みとして深い共感を呼びました。
- 幼児教育センターパードレ・ペドロ・ガブリエル校における樹木再生プロジェクトは都市環境および学校環境の改善における、私たちの確かな実践能力を示すものとして突出した評価を受けました。





戦略的な活動と公共政策

アマゾナス州環境教育機関委員会は、州内の環境教育に関する連携の最高機関であり、政府・大学・市民社会を結ぶ重要なフォーラムです。この席を担うことにより、アマゾン創価研究所は、社会環境政策の方向性を構築するうえで主導的役割を果たす立場となりました。

- **州レベルの意思決定への影響力:**アマゾナス州における環境教育の公共政策の計画・モニタリング・評価に積極的に参画しました。
- **人間主義の声:**生命尊厳の哲学および 創価人間主義を、地域の持続可能な未来を形づくる民主的議論の場へと確実に反映させました。
- **政府との連携強化:**公的機関と、池田大作博士私有自然保護区で実施されている実践的取り組みとの結びつきをさらに強化しました。

この成果は、当研究所がプロジェクト実施者だけではなく、戦略の構想者としての地位を確立したことを意味します。そして、学術的知識、地域コミュニティの現実、政府の意思決定をつなぐ架け橋としての役割を果たすことを示しています。







COP30 への歩み-アマゾン サミットにおける創価研究 所の主導的役割

COP30 の開催地であるベレンに到着したとき、アマゾン創価研究所のメンバーは、深い誇りと達成感に包まれました。私たちは単なる傍観者ではなく、アマゾンの大地で歴史的に開催されたこの会議における主役の一翼を担いました。この特別な機会に、私たちのチームは、地球規模の気候議論に人間主義の精神を刻み込むために全力を尽くしました。

プレCOP に向けた動員の力-「地球憲章」25周年記念

私たちの歩みは、締約国会議の公式開幕以前から始まっていました。パラ州アナニンデウア市にて、地球憲章インタナショナルとの戦略的パートナーシップのもと、「国際セミナー：地球憲章25周年」を開催しました。

- **グローバル・リーダーシップ**：セミナーはアナニンデウア市立劇場に国際的な声を結集させ、平和と持続可能性のための教育を新たなグローバル・インパクトの柱として力強く訴えました。
- **戦略的パネル**：創価学会インタナショナルの浅井部長が「民主主義・非暴力・平和」パネルに参加しました。その存在は、意識を倫理的・政治的行動へと転換していく創価ネットワークの揺るぎない決意を裏付けるものでした。
- **倫理的レガシー**：このセミナーにより、「地球憲章」は池田大作博士私有自然保護区における私たちの行動を導く道徳的コンパスとしての位置づけをさらに確かなものとししました。そして、私たちはその地球的相互依存のビジョンをCOPの議論の中へと力強く持ち込みました。





対話と若者の躍動：パビリオンにおける活動

首脳会議(COP)の公式開幕とともに、アマゾン創価研究所は、エネルギーと専門性をもって議論と意思決定の場を積極的に占めました。イベント前半の時点ですでに、私たちの活動は 高い広がりと存在感 を示していました。

- **若者の行動力**：当研究所の若手代表者たちはパビリオンを巡り、世界各地のリーダーと交流し、地球の持続可能性に不可欠な対話のチャンネルを開きました。
- **つながりのハブ**：私たちは、民間企業や公共機関との連携を含む管理モデルを、各国のNGO・企業・政府関係者へ紹介しました。
- **環境外交**：COPの特有の国際協調ムードを生かして、アライアンスを強化し、アマゾンの解決策は教育と地域住民の価値向上を抜きに語れないことを力強く発信しました。

未来への展望

会議の折り返し地点を迎え、私たちの胸にあるのは揺るぎない確信です。アマゾン創価研究所は、COP30に単に参加しただけではありません。今後数10年を形づくる対話の構築に寄与することができました。各パネルや会合を終えるたびに、私たちは確信を深めました。未来はたしかに大きな挑戦に満ちています。しかしその未来を導くのは、生命の尊厳と森林の保護に対し深い決意に立った人々と組織であるということを。



ローカルからグローバルへ -COP30で成功事例として 紹介されたグローバル倫 理評価会議





2025年9月18日、アマゾン創価研究所は、フランス・ゴエス市立学校にて特別なグローバル倫理評価会議を実施しました。地域社会と企業の深い連携から始まったこの取り組みは、数か月後、ベレンで開催された COP30 の注目事例の一つとして評価されました。

対話の力

この活動には、民間企業・公教育・市政の連携という模範的な形で59名が参加しました。参加者には、EcoGaia、Tutiplast、SuperTerminais、Visteonの企業代表者、さらにカレイロ・ダ・ヴァルゼア市の環境局長ルシア・コスタ氏、スマウマ研究所、学生、教員、ボランティアが加わりました。



メソドロジーと批判的考察

参加者はグループに分かれ、地球憲章に基づく指針となる質問に挑みました。これらの問いは、次のようなテーマを扱っていました。

- 科学的誤情報への対処
- 1.5° C目標達成に向けた生産・消費モデルの転換
- 気候資金における先進国の役割
- 伝統的知識の価値づけと倫理的リーダーシップの強化

その成果として、アマゾンの視点から気候危機の緊急性を表現した詩、絵画、音声作品が生み出されました。これらすべての作品は公式プラットフォームに統合され、グローバル倫理評価会議の地球規模の目標強化に大きく貢献しました。



COP30 での国際的評価

この取り組みの最高潮となったのは、COP30のパネルにおいて、本活動の公式記録を目にしたときの嬉しい驚きでした。フランシスカ・ゴエス市立学校でのイベントは、締約国会議においてグローバル倫理評価会議実施の成功例として紹介されました。



この評価は、アマゾン創価研究所が用いる方法論が、森林の声を世界の意思決定フォーラムへとつなぎ、市民社会が倫理的かつ人間主義の原則に基づいて気候危機を監視し、行動するための模範となり得ることを改めて示しています。

普及力と社会復帰-環境再教育ワークショップ

創価研究所の教育活動は、多様な人々が参与し、環境正義に不可欠な対話の場へと広く浸透する高い普及力を示しています。

戦略的な連携の一環として、私たちはマナウス環境裁判所およびマナウス市教育局との強固なパートナーシップに基づき、ECAM会場で実施された環境再教育ワークショップに参加しました。

判決を「意識」に変える

このワークショップは、環境違反に伴う措置を履行中の市民を対象として行われました。



司法機関との協力と、教育局の支援体制のおかげで、アマゾン創価研究所はファシリテーターの役割を果たし、義務的な活動の枠を越え、生物多様性の再発見と価値づけにつながる学びの場へと転換させました。

- **人間的アプローチ:** 講話と対話を組み合わせた形式で、温かく受け入れられる環境をつくりました。個人の体験を、アマゾンの動植物に関する専門知識と結びつけ、誰もが理解しやすい開かれた対話を重視しました。
- **責任への教育:** 単なる理論的な説明ではなく、個人責任の自覚を促すとともに、地域を守ることが市民と公共機関が共に負うべき責務であることを強調しました。

成果- 懐疑から熱意へ

この取り組みの最大の特徴は、各セッションの終わりに見られる変容的なインパクトです。最初は消極的で懐疑的だった参加者が、最後には森林の可能性に対して深い熱意を示す姿は、毎回非常に印象的です。創価研究所は、マナウス環境裁判所およびマナウス市教育局とともに、司法的な是正の瞬間を環境参加の“種”へと転換していることに大きな誇りを感じています。

最終的に見られるのは、アマゾンを「守るべき生命の遺産」として捉えるようになった意識の変化を遂げた市民の姿です。



戦略的提携-保全と産業界 を結ぶ架け橋

アマゾン創価研究所の活動の成功は、社会環境の変革を信じる強固なパートナーネットワークによって支えられています。マナウスの産業界との関係は物流支援にとどまりません。それは価値観の融合であり、主要企業と私たちの専門知識が力を合わせ、地域社会と生態系に真のインパクトをもたらすことを目指しています。

共有の責任-トゥチ・ソリダリオ (TUTI SOLIDÁRIO)活動

Tutiplast社との連携により、マリア・マダレナ・サンタナ・デ・リマ州立校にて「Tuti Solidário」の取り組みを2回実施しました。これらの活動は、産業界が都市再生と教育の推進者として積極的に役割を果たせることを示すものでした。

- **植樹と栽培:** 上半期には果樹の植樹を行い、生徒と企業の協働者が大地のサイクルや食料安全保障を直接体験できる機会をつくりました。
- **緑化推進:** 地域社会に合計 150本 の在来樹木の苗木を寄贈し、学校や家庭における緑地づくりを促進しました。
- **実践的教育:** 生分解性カップを用いたヒマワリの播種活動は、生命の循環や廃棄物削減について楽しく学べる教育的ツールとして活用されました。



職場における持続可能性 - SIPAT REAM

アマゾン創価研究所の普及力は、産業活動の中心部にまで広がっています。SIPAT REAM(内部労働事故防止週間)では、環境テーマを「健康と安全」の議論の中心に据えました。

- **機関講演:** 当研究所の環境教育コーディネーターであるジアン・ジネリが講演を行い、当機関の保全戦略を紹介するとともに、協働者一人ひとりの個人および集団としての責任を強調しました。
- **実践体験:** 苗木の寄贈と播種の活動を通じて、職場環境はアマゾンの生物多様性と人間の福祉を見つめ直す学びと省察の空間へと変わりました。

基礎教育の強化-SUPER TERMINAIS 社とのパートナーシップ

ブラジル初の「グリーン港」である Super Terminais 社との協働は、幼児教育に焦点を当てた長期的パートナーシップの効果を示す好例です。世界環境デーには、グスタボ・カパネマ教育施設の子どもたちを迎え、没入型の学習体験を提供しました。

- **保護区での体験学習:** 子どもたちはトレイルを探検し、「赤ちゃんスマウマの木」に出会い、無刺蜂(メリポナ)養蜂場とのふれあいを楽しみました。
- **企業ボランティア:** Super Terminais社および Super Trans 社のボランティアが積極的に活動に参加し、パートナー企業のあらゆる階層で持続可能性が実践されていることを示しました。



伝統とインパクト- ネグロ川を守る3年間の動員

2023年に単発の取り組みとして始まったものは、2025年には、地域で最大級のボランティア動員力を持つ活動の一つへと発展しました。今年で第3回目を迎えた大清掃活動は、アマゾン創価研究所とブラジル国家歴史・芸術遺産院(Iphan)との共同実施によるもので、継続性と戦略的パートナーシップが、自然遺産を守るために地域全体を巻き込む力をもつことを証明しています。

集合の力を示す数値

「ブラジル川の日」と「国際ボランティアの日」いう象徴的な期間に実施され本年度の清掃活動は、期待を大きく上回り、私たちの水系生態系の健全性への揺るぎない約束を改めて示しました。

- **ボランティア群:** ネグロ川の河岸を再生するという目的のもと、地域住民、学生、パートナーを含む198名が結集しました。
- **歴史的な成果:** わずか1日で10,910キロの廃棄物回収しました。大量のプラスチック、ガラス、タイヤが、私たちの水域を汚染し、生物多様性を脅かすことから守られました。
- **重要な認識:** この活動は、アマゾンの河川が世界的な警戒レベルにあることを示す科学的データに基づき、水質汚染に対する実践的な警告となりました。

940
KG ゴミ袋に集め
られた廃棄物

153 浜辺で回収
されたタイヤ

10,9 ゴミ数トン分

25
KG 回収され
たガラス瓶



なぜ「継続」が重要なのか

この第3回目の実施が成功裏に終わったことは、当研究所が単なる即時的な成果を追求しているわけではなく、保全文化の構築を目指していることを証明しています。

国立歴史芸術遺産研究所(IPHAN)とのパートナーシップ、そして市民社会の高まる参加意識は、アマゾンの保護が、年を追うごとに強まる市民としての責務と実践であることを示しています。

清掃活動を毎年恒例のイベントにすることで、アマゾン創価研究所とそのパートナーは、新たな意識を喚起し、「私たちをつなぐ川」を守ることは、共有され、かつ緊急の責務であることを再確認しています。



**Mutirão
de
Limpeza
2025**







「希望と行動の種子 — SDGs を現実に」展-第2地域労働裁判 所との共催

サンパウロにおいて、アマゾン創価研究所は、6月9日から11日にかけて第2地域労働裁判所がルイ・バルボサ・フォーラムで開催した「第2回気候緊急事態・気候正義会議」に参加しました。

公式プログラムの一環として、「希望と行動の種子— SDGsを現実に」展が司法パティオにて7月3日まで開催されました。この展示では、裁判所自身の「若者見習い」プログラムに所属する15歳から20歳までの18名の若者を対象に、展示モニター研修が実施されました。

彼らは、アマゾン創価研究所の環境教育者であるヘベカ・ソアレス氏によるトレーニングを受け、研修では SDGs や地球憲章といった基本テーマが取り上げられました。この学びを通して、参加者はこれらの概念を来場者にわかりやすく説明し、展示内容を効果的に仲介するための知識とスキルを身につけました。



アマゾン創価研究所 - 2025 年次報告書の結論テキスト

このサイクルの締めくくりにあたり、2025年の活動は、創価環境教育を地球市民権と社会変革のためのツールへと変革させるという私たちの使命を完全に確固たるものとなりました。環境省による「グリーンルーム」認証の取得、そしてCOP30や「子どもと若者の環境会議」といったイベントへの主導的な参加は、生物多様性の保全とヒューマニズムの融合における私たちの卓越性を改めて証明するものでした。

数百人の学生への支援、また現在では都市の植林に貢献している苗木の植樹まで、多くの人々が協力して重要な目標を達成しました。これらの成果を目の当たりにすることで、当研究所がアマゾンと世界に相互依存と希望の遺産を残すという使命を果たし続けていることを確信しています。私たちはこれまでの成果に力づけられ、今後さらに前進していきたいと考えています。

池田大作先生は、この地域の重要性について次のように述べています。

「アマゾンは人類の宝であり、人類の知恵と地球への愛の証として守らなければならない生命の森です。」



スタッフ



João Carlos
(ジョアン・カルロス)
環境部長



Maisa Braga
(マイザ・ブラガ)
財務



Jean Dinelly
(ジェアン・チネーリ)
環境コーディネーター



Karoline Emilly
(カロリーネ・エミリー)
林業エンジニア



Rebeca Braga
(レベッカ・ブラガ)
環境教育者



Juan Pablo
(フアン・パブロ)
フィールドアシスタント



Priscila Pinedo
(プリシーラ・ピネド)
苗木保育士



Carla Osawa
(カルラ・オサワ)
コミュニケーション



2025

年度活動報告書

“

「教育は、人間が自らの真正性を証明することを間違いなく可能にするものです。そうした意味において、私は、アマゾンが「教育と希望の理想の城」であり、**21世紀**の平和の大国ブラジルの空に絶えず輝き続けていくことを確信してやみません。」

アマゾン創価研究所創立者
池田大作



INSTITUTO SOKA
■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■
AMAZÔNIA ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■



協力



📍 住所: R. Des. Anizio Jobim, 980 - Colônia Antônio Aleixo,
Manaus - AM, CEP 69008-450, Brasil

📞 WhatsApp: + 55 92 3030-3549

✉ E-mail: institutosoka@institutosoka-amazonia.org.br

📷 @institutosoka.amazonia

私たちのサイトにもアクセスしてみてください。



www.institutosoka-amazonia.org.br